

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 273-0048

所在地 千葉県船橋市丸山2丁目10番15号

評価機関名 NPO法人 ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号

機構 06 - 163

電話番号 047-404-6300

代表者氏名 吉谷 健二

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0306095
	②		福祉	H1801012
	③		福祉	H1701027
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認定こども園			
評価対象事業所名称	ココファン・ナーサリー八王子北館			
事業所連絡先	〒	192-0083		
	所在地	東京都八王子市旭町1-1セレオ八王子北館		
	TEL	042-626-6183		
事業所代表者氏名	園長 丁 理恵子			
契約日	2019年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019年 9月 17日			
利用者調査結果報告日	2019年 11月 1日			
自己評価の調査票配付日	2019年 9月 5日			
自己評価結果報告日	2019年 11月 1日			
訪問調査日	2019年 11月 7日			
評価合議日	2019年 11月 8日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	当施設の保育理念・基本方針・目標をどの様に実現しようとしているのか、そのプロセスを組織運営の専門家と保育現場を熟知した専門家が丁寧に確認し、合議を重ね、公平・公正に、努力プロセスとその成果・課題を評価した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2020年 2月 3日

事業者代表者氏名 代表取締役 小早川 仁

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【学研ココファングループ理念】 すべての人が心ゆたかに生きることを願い 今日感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します</p> <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援 ★子ども一人ひとりの認知・発達に応じた個別の発達支援 ★地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援 <p>【保育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★基本的な生活習慣が確立した子 ★心も体も自立した子 ★自律した行動がとれる子 ★他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子 <p>【ココファン・ナーサリーの取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばします ★子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を促します ★養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携します
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>職員に求めている人材像や役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)お子様の成長を心から喜び、その瞬間を大切にできる人 2)仕事にやりがいを感じ、責任を持って職務にあたることのできる人 3)お子様と一緒に「気づき」を発見し、探求できる人 4)愛情を持って接することのできる人 5)自分を大切にできる人 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>職員に期待すること</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)利用者から必要な存在になってほしい 2)保育の仕事をもっと知ってもらい、楽しんでほしい 3)お子様の将来と一緒に考えられる、先が見通せる力をつけてほしい 4)お互いの考えを尊重し合ってほしい 5)貴重な時間を大切に過ごしてほしい

調査対象

利用する全園児の保護者を調査対象とした。（兄弟・姉妹で利用している場合は一世帯一人とした）

調査方法

保護者に挨拶文とアンケートを配布して頂き、アンケートは匿名で直接評価機関に郵送して頂いた。

利用者総数	57
利用者家族総数(世帯)	57
共通評価項目による調査対象者数	57
共通評価項目による調査の有効回答者数	31
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	54.4

利用者調査全体のコメント

総合満足回答は「大変満足」58%「満足」42%で満足以上の回答計が100%と極めて高い評価であった。項目別に90%以上の「ハイ」回答の項目は「発達状態に応じた在園時間の工夫」「園での活動が心身の発達に役立っているか」「活動は興味や関心を持てる内容か」「食事は配慮されているか」「時間変更は柔軟に対応してくれるか」「安全対策は十分か」「行事日程は配慮があるか」「職員と相談することが出来る信頼関係があるか」「園内は清潔か」「職員の言葉づかいは丁寧か」「怪我等職員の対応は信頼できるか」「職員は子どもの気持ちを大切にしてくれるか」「保育内容の説明は分かり易いか」等であった。80%以上の項目は「プライバシーは守ってくれるか」であった。70%以上の項目は「子ども同士のいさかいの対応は適切か」「不満・要望はきちんと対応してくれるか」等であった。60%以上の項目は「戸外遊びは十分確保されているか」であった。50%以下の項目は「第三者委員に相談出来る事を説明してくれたか」であった。90%以上「はい」回答の項目が13項目(全部で18項目中)と多く大変高い評価であった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	20	6	1	4
無回答の方を除くと、「はい」と回答された方は74%「どちらともいえない」と回答された方は22%「いいえ」と回答された方は4%であった。自由発言としては「保育時間は長いですが、夕食前に寝てしまったり、夜寝ないということは無いので丁度良いと思います」「十分遊んでいます」「様子を見ている限り適度に疲れているように思います、今年度は外で散歩も多く入れて頂いている様で身体をよく動かせていると思います」等であった。一方で「ビルの中の園なので仕方ない面もありますが運動量が少ないと思います」との意見も見られた。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	30	1	0	0
「はい」と回答された方は97%「どちらともいえない」と回答された方は3%で大変高い評価であった。自由発言としては「会話をしてくれる大人や友人が増え、表現が豊かになりました」「家にいるだけではできない体験を沢山させていただいて、本当に役立っています、プレイデーや夏祭り、生活発表会で成長を感じます」等であった。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	30	0	0	1
「はい」と回答された方は97%で大変高い評価であった。自由発言としては「工作やダンス、水遊びなど楽しそうに行っています」「井形ブロックは大好きとよく言ってます大きい作品がつくれて絵本もたくさん読んでくれるので嬉しいです」「活花やスポーツチャンバラなど家庭ではできない事を体験し楽しいです」等であった。				

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	28	2	0	1
「はい」と回答された方は90%「どちらともいえない」と回答された方は6%で高い評価であった。自由発言としては「手作りのおやつなどでも子供が喜ぶものを提供して下さってます、食育も行っていただき食べ物の言葉も増えてきました」「園で食べたものを家ででもリクエストすることもあり、子供によくあったメニューが多いです」等であった。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	21	9	0	1
「はい」と回答された方は68%「どちらともいえない」と回答された方は29%であった。自由発言としては「午後とかも外で遊ぶ時間を作って貰えると嬉しい」「街の中の園なので、他に比べると自然に触れる機会は少ないと思うが、立地的には仕方ないと思う、その中でも先生方は散歩など良く行ってくれていると思う」等であった。				
6. 保育時間の変更が急きょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	29	0	0	2
非該当に回答された方を除くと「はい」と回答された方は100%で極めて高い評価であった。自由発言としては「対応してくれると思う」等であった。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	28	2	0	1
「はい」と回答された方は94%「どちらともいえない」と回答された方は6%で高い評価であった。自由発言は特に無かった。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	29	2	0	0
「はい」と回答された方は94%「どちらともいえない」と回答された方は6%で大変高い評価であった。自由発言としては「プレイデーが屋内なのは良いです、日程も変更しなくて良いので、スケジュールが組みやすいです」等であった。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	31	0	0	0
「はい」と回答された方は100%で極めて高い評価であった。自由発言としては「毎日その日にあった事を報告していただけるので有難いです」「保育サービスそのものやスタッフの対応には満足しており、感謝しかありません」「心配ごとなども相談しやすく、感謝しています」等であった。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	0	0	0
「はい」と回答された方は100%で大変高い評価であった。自由発言は特に無かった。				

11. 職員の接遇・態度は適切か	31	0	0	0
「はい」と回答された方は100%で極めて高い評価であった。自由発言としては「とても丁寧に接してもらっていると感じています」「子どもに愛情をもって接して頂いている」等であった。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	1	0	0
「はい」と回答された方は97%「どちらともいえない」と回答された方は3%で大変高い評価であった。自由発言としては「本当に良く見ていてくれると思う」等であった。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	23	2	0	6
「はい」と回答された方は74%「どちらともいえない」と回答された方は6%であった。自由発言は特に発言は無かった。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	28	2	0	1
「はい」と回答された方は90%「どちらともいえない」と回答された方は6%で高い評価であった。自由発言としては「ペースに合わせて寝かしつけて下さっていて有難いです」「先生方には大変可愛がってもらえて、担当外の先生にもしっかり見てもらえているので、満足しています」等であった。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	27	3	0	1
「はい」と回答された方は87%「どちらともいえない」と回答された方は10%で高い評価であった。自由発言は特に無かった。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	30	1	0	0
「はい」と回答された方は97%「どちらともいえない」と回答された方は3%で大変高い評価であった。自由発言は「生活や遊びの中でいろいろなことが身につけていて感謝しています」等であった。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	24	3	0	4
「はい」と回答された方は77%「どちらともいえない」と回答された方は10%であった。自由発言としては「臨機応変に動いてくれる心遣いがとても有難かったです」等であった。				

18. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	14	3	3	11
<p>「はい」と回答された方は45%「どちらともいえない」と回答された方は10%、「いいえ」と回答された方が10%であった。自由発言は特に無かった。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	保育理念・方針は各研修時に繰り返し説明が有り、園では職員会議で再確認している 保育理念・方針・目標・取り組みについて、職員には入職時やその後の研修で会社の代表が分かり易く繰り返し説明し、園内では職員会議時に運営ガイドラインに基づき再確認している。実践の具体的計画として全体的な計画や指導計画に保育目標を記載し、保育内容を具体的に展開している。保護者には保育内容を口頭やブログ、園だよりクラスだよりで伝え、子どもの成長を丁寧に伝えている。今後はさらに、職員が保育理念・目標の実践プロセスを具体的に話し合い実行することでより深い理解を得る様に期待したい。	
	幹部は、方向性を統一し、コミュニケーションを図り、円滑な園運営に努力している 園長はじめリーダー職、一般職の役割は「期待役割シート」に明記され、定期的に自己評価している。幹部が園運営において力を入れている事柄は①保育理念・方針・目標を共有し方向性を統一して仕事をする事 ②コミュニケーションを良く取り、幹部と保育者間で良く話し合い、何でも言える風通しの良い職場を目指す事 ③職員の主体性を尊重し、各計画と運営は職員主体で運営すること ④保育の遣り甲斐を大切に子どもの成長や保護者の感謝の声を職員にフィードバックすること ⑤職員の負担を軽減することなどである。	
	職員主体でクラス会議、週案会議、職員会議で情報共有し、円滑な園運営に努めている 本社での決定事項は職員会議で説明し回覧等で周知している。園内での検討事項は各会議で検討し共有している。毎月の職員会議では全職員で情報共有することを目的として開催している。毎月のクラス会議では一人ひとりの子どもの成長確認と月の指導計画の立案を行い、週案会議では保育内容とねらいの話し合いをしている。保育実践の振り返りを通じて保育の質の向上を図るために、再度各会議の目的と進め方を検討し、さらに効率良く全職員が参画する会議を望みたい。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>園の環境条件やニーズを把握し、計画的に改善に努めている</p> <p>園を取り巻く環境条件の把握として、利用者ニーズは年4回の行事ごとに保護者アンケートを実施し満足度や要望を確認している。日常送迎時の会話でも把握して保育サービス改善に取り組んでいる。職員ニーズは職員全体で話し合い、また、個別の話し合いで把握し、職員負担軽減などに取り組んでいる。地域や業界の動向・ニーズは地域の会議・研修に参加し、また、本社情報で把握し、待機児童の状況、無償化の情報など、地域ニーズに対応出来る様に努めている。</p> <p>中期計画にもとづいて、今年度の重要課題を設定している</p> <p>中期計画を作成し、3年後の目標として、理念・方針の実践目標、保育計画の目標(保護者支援、地域支援)、園運営計画・目標(園運営、ガイドライン)職員育成計画・目標(職員体制、人材育成)等が計画されている。今年度の重要課題は①保育理念・方針・目標を日々実践するため、具体的な保育目標を話し合い明確にすること ②職員主体の運営を進めるために、保育実践を振り返る場や会議の充実を図ること ③職員負担軽減のために行事の簡素化と内容の充実 ④保護者へ保育内容とねらいの情報提供等である。</p> <p>年間計画の各課題を5W1Hで具体化しPDCAを確実に回す様に期待したい</p> <p>計画の進捗確認としては、保育理念・方針・目標の実践に関しては、保護者アンケートや行事アンケートの結果を踏まえて、定期的な職員会議で成果と課題を確認している。職員主体の運営と負担軽減に関しては、日々の会話と会議時の意見などで把握し、定着率向上に繋げている。今後、さらに、中期計画に基づき今年度の課題を明確に設定し、計画を5W1Hで具体化して、確実にPDCAを回す様に期待したい。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
<p>子どもの人権や倫理綱領など記載した運営ガイドラインに沿って保育業務にあたっている 就業規則や運営ガイドラインに沿って倫理が遵守されるように保育業務にあたっている。運営ガイドラインには保育理念・方針・目標、倫理綱領、サービス規程(基本ルールや言葉づかいなど保育者の心得)、子どもの人権(保育指針、憲法、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利擁護条約など)、虐待防止、個人情報保護方針等を規定し、園内研修として運営ガイドラインを再確認している。また、保育所保育指針、保育倫理綱領をもとに指導計画を作成・見直し、基本の理解と実行に努めている。</p> <p>苦情解決制度を入園説明会や保護者会で説明している 苦情解決制度は重要事項説明書(苦情解決の体制、苦情解決の手順など)に記載し、入園説明会や保護者会にて説明している。また、個人面談や連絡帳、意見箱等で苦情・要望を受け、苦情・要望が出た場合、内容に寄っては本部・市とも連携し解決している。また、日常的に意向を確認し、保育サービス改善に努めている。今回の保護者アンケートの結果では制度の理解は45%で理解が進んでいないので、再度子どもと保護者の権利擁護システムとして目的を理解して頂ける様に望みたい。</p> <p>虐待防止研修をガイドラインに基づいて行い、セルフチェックを実施している 運営ガイドラインに基づいて、子どもの人権擁護や虐待防止に関する園内研修を行い、年1回セルフチェックを実施して子どもの権利を大切にしている。また、虐待の疑いのある利用者情報を得た場合は、各関係機関と本部と連携し対応する体制がある。地域連携では未就園児の保育所体験、高校生のボランティア体験、駅ビルの方との交流、近隣小学校交流、ビル内共同の避難訓練など地域連携を進めている。</p>		
カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>事故防止は全職員で原因と対策を共有し、見守りや観察を徹底し、防止に努めている</p> <p>事故防止対策は事故怪我報告書、ヒヤリ・ハット報告書をもとに、年齢別、事故別、場所別に対策を具体化し、職員会議で徹底している。また、園内の整理・整頓、危険チェック表による70ヶ所危険チェック、また、危険個所のクッション等による対策、怪我等朝礼による情報共有など総合的に事故防止に努めている。感染症は夏なら食中毒、冬にはインフルエンザ、ノロ感染症など対策を研修しガイドラインに沿って手洗い、消毒、空気清浄など感染防止を徹底している。SIDS防止のため年齢別チェック表にて徹底しうつ伏せ寝や敷き布団に注意している。</p> <p>毎月、避難訓練を実施し、また、大災害に備え対処方法を保護者と共有している</p> <p>年間避難訓練計画をもとに毎月1回、地震や火災、水害など想定し場所や時刻を変え避難訓練を実施し、また、ビル内事業者で自衛消防訓練を年2回共同して行い災害時に備えている。大規模地震警戒宣言が発令された場合や火災・地震で園が被害に遭った場合、風水害の恐れのある場合など対処について、重要事項説明書に記載し保護者と共有している。また、大地震等の大災害時の事業継承計画は本社で策定し、体制、災害時対応チェック項目、情報のバックアップ、備蓄品、感染対策など大災害時に備えている。</p> <p>外出時には子どもの名前が分からない様に配慮するなど、個人情報保護を徹底している</p> <p>個人情報保護方針は保護者には重要事項説明書で説明し、扱いについて同意書を頂いている。職員は入社時に誓約書を提出し、退社時にも頂く様にしている。ボランティア学生にも口頭で説明し、同意書を記入して頂いている。保護者との相談は別室で行い、外出時の子どもの名札やロッカー、誕生日表も特定できない様に配慮し、個人情報保護を徹底している。情報の管理は紙ベースの資料は鍵付のキャビネットに保管し、外部持ち出しは禁止し、パソコン情報はパスワードを設定し情報漏えいを防止している。</p>		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 **3/3**

評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

充実した新人育成体系がある
 新人は本社にて基本理解の研修で理念の理解とグループマインドを醸成し、その後年4回基本習得のBasic研修を受ける。園配属後は先輩がコーチ役となり何でも聞き易い体制で1年間現場でOJT指導を受け、スタート研修項目・ベーシック研修項目等を学ぶ、3ヶ月毎チェック表にて自己申告し、コーチ判定により個人別の進捗に合わせて成長を図っている。コーチになる職員はコーチ研修を受け、教えることで共に成長する機会となっている。

個人目標を設定し、階層別本社研修、外部専門研修に参加し能力向上を図っている
 「期待役割シート」に基本、中級、上級のクラス別に共通ベーシックスキル(理念、業績、自己啓発など)専門スキル(基本スキル、子どもとの関わり、人との関わり、表現、環境設定など具体的な内容)が明示され、職員はクラス別に自己評価し個人の目標を項目別に具体的に設定した上、園長の面談を受けOJT指導や研修を受け成長を図っている。研修は階層別研修としてコーチ研修、リーダー研修、管理者研修が有り、別途専門研修があり、また、外部の各種専門研修を希望や必要に応じて受講し、当園では毎月4~5名が参加し視野の拡大を図っている。

働きやすい職場に努力し、業務の簡素化や互助のチームワークなど成果が上がっている
 働きやすい職場を目指して努力している事は、①仕事の見直しと業務の簡素化による職員負担の軽減 ②体調不良時などチームでの助け合い ③コミュニケーションを良くして一人で悩まない ④超過勤務の削減や休暇取得、育児休暇取得などワークライフバランスの配慮等である。今後はキャリアアップの将来見通し、非常勤職員のやる気と育成など配慮する予定である。働き甲斐としては①会議など職員の主体的な運営 ②個人目標のOJTと連動した設定 ③スポーツチャンバラなど専門性の評価 ④感謝の声などフィードバック等である。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(職員が働きやすい職場づくりに努力し、保育サービス向上をを目指している)
働きやすい職場づくりにより職員の満足度が上がり、連動して保育サービスの向上と利用者満足度の向上が達成できるように努力している。そのため①仕事の見直しと業務の簡素化による職員負担の軽減 ②職員の体調不良時などチームでの助け合い ③コミュニケーションを良くして一人で悩まない ④超過勤務の削減や休暇取得、育児休暇取得などワークライフバランスの配慮等の努力をしている。働き甲斐としては①会議など職員の主体的な運営 ②個人目標のOJTと連動した設定 ③スポーツチャンバラなど専門性の評価 ④感謝の声などフィードバック等である。また、1人ひとりの職員とは面談(年2回またはその都度)での個々の目標を明確にして、各役職の職員はキャリアアップに向けての研修を行い、また、ブロック内の職員の交流研修などで意見交換や保育の見学を行った。いろいろな人と出会うことで、様々な考えや意見を受け入れ環境構成・保育の展開等につなげられるようにしている。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

働きやすい職場づくりは最重要課題であり、業務の簡素化により子ども一人ひとりへの関わる時間が増えるなど成果が上がっている。一方行事の簡素化は同時に内容の充実を目的とした、職員の負担は軽減したが、「行事内容とねらい」の明確化による保護者への理解の点はさらに工夫をして周知・浸透させる必要があると思われる。休暇の取得等はほぼ100%の達成率で、また、互助の精神で困ったとき助け合うチームワークも成果が上がっている。働き甲斐の点では目標の明確化の点で個人目標、指導計画の目標、園全体の目標とが連動する様に話し合う必要があると思われる。また、成果の把握を工夫して職員へのフィードバックも今後の課題である。保育理念の「浸透」という意味では研修が増える事で、意識できる機会がより増えたと思われるが、保育理念の実践によるより深い理解は今後の課題である。

評価項目2
 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

(保護者へ遊びと保育目的の浸透)
 遊びや生活の中から学んでいることを保護者にもきちんと伝え、「ねらい」を共有し一緒に成長を喜ぶ機会を多く作ることで、就学前の不安などを取り除ける様に努めている。子どもの主体性を尊重し、様々な遊びを考え、スポーツチャンバラ、縄跳び運動、散歩、もじかずランド、絵本読み、ごっこ遊び、自由遊び、ペンキ塗り、レゴ組立、活花遊びなど日々計画し「ねらい」を書いて、実施結果をエピソードとして記入して保護者が毎日確認出来る様にしている。スポーツチャンバラの研修を実施し、職員のなかからライセンスを取得することができ、お子様の状況に合わせて余裕を持った活動ができ、楽しく行っている。もじかずランドも研修も行い、4～5歳の活動に取り入れ、日々の生活の中から、「しりとり」や「なぞなぞ」など文字や数に触れられるように意識づけを行っている。絵本では椅子に座り「絵本の時間」を各クラス作り、活動の1つとなり、計画的に実施している。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

スポーツチャンバラを毎週定期的に行い、楽しく取り組み運動力や集中力、礼儀作法、危険回避力の向上に繋がっていると思われる。また、他園との交流試合も開催し、「勝つ喜び、負ける悔しさ」など様々な気持ちを養うことができている。もじかずランドでは、文字に興味がある子どもが増え、職員との手紙のやり取りなど積極的に行うなど成果が上がっている。絵本は毎月「自分だけの1冊」を楽しみにしており、1枚1枚を丁寧に読み、子ども自身の習慣になり、物を大切にすること意識、五感を使っての気持ちの感じ方など成長がある。遊びの中から日々の生活につなげていく事ができている。保護者への情報提供は週・日案を提示して案内している。今後、園全体で保育目標を具体的に、「各あそびとねらい」を保護者に分かり易く案内するために、職員で話し合いの場をさらに設けていくことが望まれる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>ホームページや入園のしおりで、理念や特徴などを分かりやすく案内している</p> <p>情報提供手段として見やすく、理解しやすいホームページの充実に取り組んでいる。内容は園の理念や保育について、一日の流れ、年間行事予定、よくあるご質問、ブログほか、具体的な園の取り組み、保育や園生活については、写真入りで分かりやすく説明している。「園体験のご案内」のチラシを作成し近隣の家庭支援センターや駅ビルキッズスペースに置き、親子での見学体験を積極的に呼びかけている。また見学体験に来た保護者には、短時間保育枠、長時間保育枠の2種類の入園のしおりを準備して、分かりやすく説明をし見学をおこなっている。</p> <p>利用希望者の特性を配慮して、分かりやすく情報を提供している</p> <p>日本語を母国語としない保護者には、個々に対応し分かりやすく説明している。始めに短時間で園紹介の動画を観覧していただき、実物大の見本品を用意して使い方を知らせ、理解が不十分と思われた時には、ジェスチャーや翻訳機能を使って情報の提供をおこなっている。さらに平仮名や漢字の文字に起こして見せるなど個々にあわせて丁寧に説明している。今後は入園のしおりやチラシにルビを付けるなどの取り組みも行う予定でいる。</p> <p>利用希望者の問い合わせや見学には、保護者のニーズに対応しておこなっている</p> <p>電話での問い合わせには随時対応し、見学を希望される方には「見学・体験申し込み」をしていただく事を案内している。見学は随時おこなわれているが、希望者が増える9・10月頃からは、週1回程度で見学体験遊びをしている。午後の昼寝の時間を使い、園紹介のための動画を観覧後は、見学コースと体験コースに分かれてクラス見学や手遊び、絵本の読み聞かせ、手形スタンプ遊びなど、保育者と一緒に親子が楽しんで体験出来るようにしている。質疑応答では身近な子育て相談を受けるなど丁寧に対応している。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園説明の際には重要事項説明書で詳しく説明し、入園の際には同意を得ている</p> <p>入園説明にあたっては、入園前月に生活の手引きという重要事項説明書を配布して説明している。重要事項説明書には保育理念や方針、目標、年間行事予定、一日の流れ、給食、保健などについて分かりやすく説明されている。園の特徴である、スポーツチャンバラ、もじかずランド、絵本など資料をもとに幼児期に育成したい目的や年間の取り組みを説明し保護者の理解を得ている。継続児は年度末の更新期間を利用して、全保護者に重要事項説明書を配布し、新しい事項や変更を中心に個々に説明している。開始にあたり同意書を提出していた。</p> <p>新しい環境に慣れるように、子どもや保護者の状況に合わせた対応をしている</p> <p>新入園児については、なれ保育の期間を設け、不安やストレスを軽減し無理なく園での生活に慣れるよう柔軟に対応している。一週間を目安とした、なれ保育については、説明会で伝え保護者の理解を得ている。子どもの情緒面や遊び、食事状況、睡眠状況、保護者の就労状況などの都合に合わせて考慮し、スケジュール表を作成して確認しながら柔軟に進めている。また、保護者の方にも担任始め、職員との信頼関係が築けるよう、全職員が気軽にコミュニケーションできる雰囲気づくりに力を入れて取り組んでいる。</p> <p>成育歴や個人面談で、子どもの様子や保護者の意向を確認して、保育に反映している</p> <p>入園説明会の後に、個人面談をおこない入園までの生活状況記録、児童票、食材進捗表、アレルギー確認表、保護者の意向などを把握して保育に活かしている。生活面では、子どもの心身の発達や癖、好きな遊び、愛称などを参考に保育者が関わりを持ち、無理なく園での生活に慣れるようにしている。また、卒園を迎える時期には親子で小学校への期待が持てるよう情報を提供し、転園には不安な時期にならないよう連絡帳や口頭で伝え合い、いつでも立ち寄って頂けるように伝えている。今年度は「保護者クッキング」において再会し、交流する予定である。</p>			

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの様子や子どもを取り巻く状況に即して、指導の過程についての反省や評価を行い、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが指導事例を持ち寄り、話し合う場を設けることで職員の専門性を高め、一人ひとりの幼児理解を共有化している	○非該当

サブカテゴリー3の講評			
<p>全体的な計画に基づき、指導計画を作成し一人ひとりを受け止める保育実践へ繋げている</p> <p>全体的な計画に基づいて、子どもの実態や保護者の要望を考慮した計画が策定されている。年間指導計画は全クラス4期に分けている。0歳児は発達月齢区分を2か月として、4期に分けた計画を作成している。また3歳未満児と障害のある子どもには個人経過記録を作成し、毎月見直しをしている。子どもの実態は、家庭調査や生活の中で観察把握し、保護者意向は、懇談会や面談で確認している。計画の振り返りは年度の前、後、期、週、日でおこない記録し、次案に反映させている。状況把握に努めた計画で、活動を選択し個々を受け止めた保育に繋げている。</p> <p>毎日子どもに関する情報を職員間で共有することで支援体制を整えている</p> <p>日々の連絡は朝礼でおこなわれ、クラスの活動や欠席の様子、個々への配慮事項、保護者の伝言を周知し、職員間で共有することで支援体制を整えている。内容は園日誌、引継ぎ表に記載され事務所に置き、全職員が確認できるようになっている。参加できない職員には、クラス朝礼ノートを回覧して周知している。指導計画、児童票、個人経過記録が事務所に保管してあり、見ることができ共有を図っている。記録は肯定的な見方でおこなわれ、個々の継続的な支援に努めている。職員研修では、社内他園と実践例を持ち寄り、意見交換をして専門性を高めている。</p> <p>日案の振り返りをクラスで話し合い、さらに積極的に遊び、活動できるように期待する</p> <p>指導計画に沿った内容とその結果の子どもの姿を記録している。年間、月案、週日案、児童票などで反省評価がおこなわれ子どもの状況変化を観察記録している。保育日誌では、活動のねらい、環境構成・保育士の配慮、活動が記載され個別記録や反省・評価で振り返るようになっている。保育実践の反省評価は、環境としての保育者の関わりに、視点を持った振り返りをおこない、日々クラスでの対話や会議での話し合いなどを活かして、次案の計画を作成していく事が望まれる。記録から見る育ちも活用していきたい。</p>			
サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どものプライバシーに配慮した保育をしている</p> <p>年度当初に、重要事項説明書において、ビデオ・写真などの記録の管理や、ブログの管理など、個人情報保護についての説明をおこない、同意を得ている。おむつ交換をする時には、入口から見えない場所を選び、なるべく保育者の体で隠すようにするなど、対応の方法についても気をつけている。また、午睡前などの着替えでは、洋服を全部脱がずに、上を着替えてから下を着替えるというような配慮をし、子ども達も理解している。散歩の時は、名前が見えないように名札を裏返すなど、子どものプライバシーに配慮した保育をしている。</p> <p>子どもを尊重した保育をすることで、保護者からの信頼を得ている</p> <p>子どもを尊重した保育に関して、ガイドラインが整備されており、職員間の共有も図られている。ガイドラインでは、「子どもの対応」について、受け入れ、食事、排泄、睡眠、着脱など、場面ごとに詳細な対応のし方が示されている。また、「子どもの言葉かけNG集」も共有されており、保育者は、日々の生活の中で子どもの気持ちに寄り添い、人権を大切にされた保育の実践に取り組んでいる。結果として、今回の第三者評価保護者アンケートの中で、「職員の言葉づかいや態度」「子どもの気持ちを大切にされた対応」の部分での、高評価に繋がっている。</p> <p>虐待防止についての研修をおこない、職員間での共通理解を図っている</p> <p>虐待防止についてのマニュアルでは、「虐待早期発見のためのチェック部分」として、子どもの様子と保護者の様子について、チェックポイントがわかりやすく挙げられており、職員は、マニュアルに沿った研修をおこなっている。虐待を受けたと見られる園児を発見した場合は、すぐに園長に報告するとともに、職員間で情報を共有、また、園長はしっかり見極めたうえで、本部と連絡を取り、各関係機関に連絡する仕組みができています。</p>			

サブカテゴリ-6				
6	事業所業務の標準化		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(000)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
	●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			評点(00)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
	●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評				
<p>手引き書等で園の提供しているサービスの基本事項や手順書を明確にし共有している</p> <p>基本事項や手順は運営ガイドラインで明確にし職員で共有、都度確認をしている。運営ガイドラインであらゆる分野について作成されており保育を提供する仕組みが構築されているので職員で研修をして読み合わせをしている。保育の進め方、行方不明児対応マニュアル、安全管理マニュアル、衛生管理マニュアルなどがある。毎日の業務手順は間違いが無いよう壁に添付、確認して実践している。床の消毒方法、保育室での電話のかけ方、ミルクの作り方等がある。子どもの視線でのうがいや手洗いについては絵入りで分かりやすくなっている。</p> <p>運営ガイドラインは継続して見直し、最適なガイドラインに更新している</p> <p>本社で行う会議等で得た情報を職員で共有し見直しや変更を行っている。運営ガイドラインは系列園の代表が数名集まり、年間の実施状況を振り返り、修正の必要な箇所を見直し、最新のガイドラインに更新している。見直した運営ガイドラインに基づき、園独自の業務手順や行事、保育の進め方、感染症予防や連絡、消毒液の使い方作り方等も定期的に見直している。</p>				

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている	評点(○○○○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつキ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>園目標の取り組みにある「育ちの力を伸ばす」環境を工夫している</p> <p>エントラスを中心に保育室が並び、向かい側の動線上に、トイレとホールがあり、全体を見渡せる造りとなっている。柱や壁には制作や5歳児が体験した生け花が飾られて、明るく動きやすい空間になっている。部屋の仕切りからは、隣の様子が見え未満児室には、ままごとやブロック、手作り玩具、絵本は季節を活かした興味のある本が並んでいる。保育者は遊びたい気持ちをくみ取り、自主的で好きな遊びを援助をしている。以上児は主活動と主体的な自由遊びの両輪で、子どもが本来持っている「育ちの力を伸ばす保育」を意図とした環境を構成している。</p> <p>子どもの現状を把握し一人ひとりを大切に、あたたかい保育がおこなわれている</p> <p>家庭での様子は、連絡帳や朝の口頭での会話、登園チェック表、朝礼の報告、面談で把握した内容を確認し、園での姿は生活の中で観察記録し個々の把握に努めている。朝夕の時間帯では、異年齢での交流があり、大きい子が小さい子の面倒を見て一緒に遊び楽しさを共有したり、小さい子は大きい子に憧れの気持ちを持つなど、育ち合いの場を大切に見守っている。気になる子や配慮が必要な子どもには、必要に応じて保育者を増やし、自然な関わりで困った時や必要なときの支援で、集団における一人を大切にしたいあたたかい保育がおこなわれている。</p> <p>子ども同士のトラブルは、双方の気持ちを尊重した対応で導いている</p> <p>子ども同士のトラブルは、育ちあいの中から生じるもので、双方の気持ちに寄り添って話を聞き、解決出来るよう見守りや仲立ちをしている。解決できる場所は話し合いでの解決を見守り、納得のいかないときは仲立ちをしているが、相手の良くない面だけを見ず、相手の気持ちにも気づかせるような方向づけをしている。3歳未満児の場合は発達の状況から、予想される噛みつきもあるので、保育者同士周知して事前に気を付けるよう配慮している。トラブル後は心の葛藤もあるので、落ち着いたところでその日のうちに気持ちに寄り添った言葉かけをしている。</p>			

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

家庭と協働して基本的な生活習慣が身につくように援助している

保育目標に「基本的な生活習慣が確立した子」と掲げ、発達段階を踏まえ、子どもに合わせた援助をしている。小さい子は毎日の生活を積み重ね無理なく進めている。以上児は月1回保健の話しを聞く会で、生活習慣の大切さを知らせている。本部の取り組みとして、絵本を使って手洗いやうがい、健康などを読み聞かせを実践している。月末には家庭でも継続して取り組めるように絵本の無償配布をおこなっている。今年から歯磨きとパジャマは、安全性や緊急時を考慮して取りやめたが、取り組みの工夫で家庭と協働しておこないたい旨を、保護者に説明している。

子どもの状態は登園時口頭で聞き、連絡帳を確認し、連続性した保育に配慮している

0歳児は登園の際、登園チェック表に記入後、視診を兼ねて保護者がオムツ替えをしている。保育者も脇に寄り添い、一緒に見守って子どもが気持ちよくなったところで、預かる流れになっている。早朝保育では、連絡帳の他、登園チェック表に記入し、早番の職員が直接子どもの様子や伝言を確認している。家庭との連続性に配慮して伝言は朝礼で報告されている。保育中の出来事や体調の変化など保護者への連絡事項は、登園同様連絡帳や口頭で伝達している。怪我などの場合は、電話連絡の後は保護者の帰りを待って担任と園長が丁寧に状況を説明している。

園での様子は連絡帳やホワイトボード、降園時直接伝え保護者と共有を図っている

未満児の連絡帳には、担任からその日の遊びや生活の様子、健康面、睡眠についてきめ細かく記入されている。降園時は各クラスホワイトボードに週日案と、ともに本日の活動の様子が記載されている。園内はいつでも話しやすい雰囲気をつくり、コミュニケーションの中で、子どもの様子や成長を伝え合っている。日々一人ひとりの保護者と子どもの成長を共有し、喜び合うことで信頼関係を積み重ねている。また保護者が家庭でおち着いた時に見られるように職員が交代で、毎日ブログを更新している。活動の様子にコメントを付けて、成長の喜びを共有している。

3 評価項目3

日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

絵本をツールとして遊びや生活が豊かに展開されるように工夫している

毎月対象の年齢にふさわしい絵本を個々に配布し、保育の中で十分活用した上で、家庭でも継続して親子で楽しめる様に工夫している。1歳児は本を開き場面に合わせて繰り返し言葉を楽しみ「わんちゃん見たね」と活動に結びつけ皆で共有する時間にもなっている。保育者は興味の範囲を推察し絵本の活用で子どもの感性や好奇心に興味の幅を広げている。物語、科学、自然、食、数、文字、音楽と総合的な分野が掲載された本となっている。各部屋には選択できる本も多数用意され常に生活の中で読んで楽しむ子どもの姿が見られている。

音楽遊びやリズム、季節の制作等を通して表現遊びを楽しみ感性を高めている

音楽遊びやリズムは年齢に応じて取り組んでいる。音楽を流してダンスを踊りピアノに合わせて体を動かし歌を唱え楽器に親しみ表情豊かに楽しんでいる。音楽の音色やリズム、旋律は心を和ませ調和のとれた心を育み一緒に響き合える時間となっている。発表会では保護者も交えての響き合いを体験している。季節の制作は月1回予定しており作品はエントランスを飾り園内に暖かさや微笑みを生み出している。1年の集大成には成長記録展が行われ、各部屋やエントランスに合同作品や個々の作品が飾られ子どもや職員、保護者の目を楽しませている。

自由遊びに学びや仲間育ちに「ねらい」を持った保育内容のさらなる充実に期待したい

異年齢での活動は散歩や戸外遊び、年長児のお手伝い、食事会等種々の設定がある。幼児組の戸外活動で鬼ごっこやだるまさんが転んだ遊びでルールを教えてあげる姿や、5才児のお手伝いでは1才児の部屋でミニ先生になり、絵本を読んでいる姿がみられた。ミニ先生は小さい子の憧れとなり大きい子の自信となっている。0才児のエプロンやスカーフを巻いてのごっこ遊びの展開でやって欲しいことや思いを伝えた他児とのやりとりが記録されている。今後も思いやりや主体性を育む異年齢や自由遊びからの学びで仲間育ちへの充実発展を期待したい。

4 評価項目4

日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当

評価項目4の講評

子ども主体の楽しいと思える行事となるよう考え工夫している

季節を伝統行事で楽しみ、食する事で伝える、遠足、七夕、夏祭り、お月見、ハロウィン、クリスマス会、豆まき、ひな祭りなどがある。保護者参加の夏祭りは評判でソーラン節の披露、スタンプラリー、ヨーヨーすくいコーナーも有り親子で楽しむ機会となっている。子どもの傾向や興味、関心のある事を盛り込む行事に繋げている。お誕生会は毎月行われ担当が内容を企画、パネルシアターや大型絵本等で楽しみ誕生児の名前を発表するという趣向、高齢者交流も年3回あり4、5才児は元気をあげ優しさももらうことで、豊かな感性を育む機会となっている。

みんなで協力しやり遂げる喜びを味わえるような行事の取り組みがある

運動会は小学校校庭を借り、日頃培っている体育遊びでの活動の成果をバルーンやダンス、体操種目に取り入れ担任の思いとやり遂げた子どもの姿が反映されている。子ども主体の活動にと練習の方法を試行錯誤し保育者は子どもの様子や意見に添うよう進めている。0、1才児は親子競技で楽しみ、保護者競技も取り入れ一日楽しんでいる。発表会で乳児は日常を再現、朝の歌、名前を呼ばれる等、2才以上は楽器の取り入れと保育者が演出する歌や踊り、台詞の入ったオペレッタに取り組み保護者も一緒に楽しさを共有し成長を喜び合う機会となっている。

保護者の協力や応援、笑顔が子どもの喜びや意欲を高めている

運動会での保護者競技の追いかけっこ玉入れはアンケート意見からの改善プログラムで皆が参加しやすいと好評を得たものである。保護者の参加協力は子ども達と一緒に楽しさを共有し運動会を盛り上げていた。夏祭りや発表会でも子どもの成長を喜び、子育ての楽しさと安心を感じる一時となっていて相乗効果で子どもの意欲も高めている。4、5才児が取り組んでいるスポーツチャンバラは、いつでも参観することが出来保護者の理解と応援を頂いている。年長児は系列園でのスポチャン交流会があり日頃の成果を発揮する成長の節目となっている。

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○	非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○	非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○	非該当
評価項目5の講評			
<p>長時間保育は安心して過ごせるよう個々の把握に努め、心に寄り添うことに配慮している</p> <p>長時間保育担当には担任より伝達表が渡され日中の様子についてしっかりと引き継ぎが行われている。短時間保育の子が活動の途中で降園にならないような配慮も心がけている。0、1、2才と幼児クラスに分かれて保育を行い、落ち着いて遊びやすい体制を取り玩具や保育者の変化を少なく配慮し安心して過ごせるようにしている。体調不良や心身の変化にも気を配り少人数になったら部屋探検をしたりいつもと違った玩具を出したりして気分を転換を図り寂しくないよう遊んでいる。</p> <p>伝達ノートでの引き継ぎは確実にに行われ保護者の安心信頼に繋いでいる</p> <p>担任は登所時の様子、日中の出来事等を視診表に記入確認し、伝達ノートにその日の子どもの変化を記し、担当に渡すことで把握し迎への保護者にそれを読み上げて伝えることにしている。日付、用件が書かれたものになっている。長時間保育の0・1・2才児については特に朝早くから遅くまでなので連絡帳や口頭で子どもの様子を確認し職員全員が周知し家庭での様子の連携で健康で安心できる支援を心がけている。</p>			
6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○	非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○	非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○	非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○	非該当
評価項目6の講評			
<p>食材に触れたり栽培活動を経験することで、食への興味・関心を深めている</p> <p>子どもの発達段階に合わせたねらいとともに、食育年間計画が作成されている。乳児クラスでは、食材にさわったり、ちぎったりする経験をする中で、食への関心を高め、幼児クラスでは、アイシングやスイートポテトなどの、クッキングをしている。5歳児は包丁を使う経験も取り入れている。「ラディッシュ」「トウモロコシ」「サツマイモ」などの栽培活動では、クラスごとに、水やりなどの担当日を決め、全クラスでお世話や収穫をすることで、子ども達全員が感動体験を味わうことができ、食に対する興味・関心を深めている。</p> <p>子ども達が、美味しく食べやすい食事の工夫をしている</p> <p>栄養士は、配膳後各クラスをまわって、子ども達の食事の様子を見る機会をつくっている。子ども達の苦手なものを把握していて、苦手な食材を使った時は、必ず様子を見に行くようにしている。調理方法も、苦手なパインアップルはピューレ状にしたり、枝豆はフードプロセッサでがんとどきにしたり、栄養バランスを考え、苦手なものでも、食べやすい調理のし方を工夫している。子どもの日や七夕など、季節を感じられるメニューを取り入れたり、お弁当給食の日があったり、楽しいメニューも取り入れることで、魅力ある食事の提供をしている。</p> <p>アレルギー対応除去食など、安心・安全な食事の提供に努めている</p> <p>旬の食材を使い、手づくりで、安心・安全な食事の提供をしている。だしは、こんぶとだしパックでとっている。アレルギーのある場合は、アレルギーの完全除去で提供している。毎月、アレルギー使用予定献立表で保護者がマーキングし、さらに栄養士との面談をおこない、マーキングに漏れがないかチェックしている。食事の際は、他の園児とお盆の色を変え、園児の名前と除去している物を大きく書くなどして、安全に気をつけている。なるべく見た目を変えないような配慮をし、代替え食の内容についても、面談の時に、保護者に伝えている。</p>			

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日々の子どもの健康状態を全職員で共有し、体調の変化に気づくように努めている</p> <p>朝の受け入れでは、保護者が書く「登園チェック表」と、保育者が記録する「毎日の健康状態観察記録」があり、保護者と保育者両方で視診をしている。乳児クラスでは、登園時に保護者が検温し、健康観察は、保護者と保育者が一緒に全身を確認している。目や皮膚の状態など、細かく観察することで、体調の変化も気づきやすく、保護者にもすぐ確認ができている。毎朝、各クラスの代表が集まり、全クラスの子どもの健康状態を確認している。さらに、情報は他の職員にも伝達され、全職員が、健康状態を把握できるような体制を整えている。</p> <p>「ヒヤリ・ハット」の実践や室内の丁寧な消毒で、けがや感染症の予防に努めている</p> <p>子どもの行動で、ヒヤリとしたことを記録する「ヒヤリ・ハット報告書」がある。これは、朝の朝礼ですぐに共有し、事故防止に努めている。園内で起きたけがや事故は、1ヶ月ごとに集計され、改善策を記録し予防に繋げている。感染症予防に関しては、徹底した保育室の消毒や清掃、適切な室内温度の管理に取り組んでいる。兄弟姉妹がいる場合の登園順番について、0～2歳児クラスに配慮し、上のクラスから預ける。降園は下のクラスから、というような取り組みをしている。玄関のところに感染症のお知らせボードがあり、一目で分かるようになっている。</p> <p>嘱託医、歯科医と連携を取りながら、子どもの健康管理をおこなっている</p> <p>嘱託医による健康診断は、0歳児は年4回、1～5歳児は年2回、歯科検診は年1回実施している。健康面で気になることがあれば、嘱託医と連絡を取り、相談ができるような体制になっている。健康診断の結果は、「健康カード」で保護者に知らせている。月1回、各クラスで「保健の話」を実施し、自分の健康に興味を持たせ、予防に繋がるように指導している。乳幼児突然死症候群については、重要事項説明書で予防策を保護者に伝え、園では、0歳児5分、1・2歳児10分、3・4・5歳児15分チェックを実施して、発生予防に努めている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>子どもの姿をリアルタイムで発信、丁寧に伝えることで保護者の信頼と安心へ繋いでいる</p> <p>毎日は連絡帳や口頭、ブログ、ホワイトボード、伝達表で子どもの様子を伝えている。職員間で個々の情報が共有されていて担任以外の職員も挨拶や会話を心がけている。月1回の園だよりやクラス便りも興味や遊びのブーム、友達との関わり、成長が掲載され養育力アップ、保育所理解へと繋がっている。個々の延長時間の遅れや行事の取り決め、保育時間の変更にも話せる機会を作り対応している。個々の保護者に寄り添った対応は信頼と安心へ繋いでいる。</p> <p>行事や懇談会、クッキングは保育所への理解を深め保護者同士の交流の機会になっている</p> <p>夏祭り、運動会、発表会は保護者の協力を得た楽しいイベントであるが、子ども、職員と共に保護者も子どもの成長の様子が見られる楽しい行事となっている。一緒に活動をしたり、応援をしたりすることは、保護者同士共感し合い親睦を深める機会となっている。年2回の懇談会、保護者同士顔を見合わせ子どもの育ちについて担任の話聞き、他の保護者の話も聞いて参考にすることで養育力向上に役立てている。保護者クッキングはレシピを提示し簡単に家でも出来るアドバイスで調理をし、クッキングを通して保護者同士の交流の機会を作っている。</p> <p>「保育ボランティア」は子ども理解を深め保護者の養育力を高めている</p> <p>保護者が午前中の保育に参加し実際の保育者の動きや言葉かけ、配慮等を知る機会となっている。日常の子どもの様子や友達との関わりも見られ、家との違いや他の子ども達の様子を学ぶ機会にもなっている。実際家庭でも保育者のように子どもに接してみたところスムーズに行ったとの声も聞かれ、保護者の養育力アップに繋がった例がある。この企画のねらいを丁寧に伝え、理解に繋げる工夫で多くの保護者の参加となるよう期待したい。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>駅ビルの中にある施設という立地を活かし、社会体験の場を広げている</p> <p>駅ビルの中にある認定こども園という立地条件を活かし、ビルの中にあるお店の人達と、交流をおこなっている。「ハロウィン」では、協力しただけのお店に、お菓子と簡単な仮装をお願いし、子ども達がお菓子をいただきに行くことで、楽しい交流の場となっている。また、5歳児が「勤労感謝の日」に合わせ、ビルの1階にある防災センターの人や、運動会で体育館をお借りする小学校の先生に、感謝の気持ちを込めたプレゼントを渡す体験をしている。この他にも、「ドーナツ店」や「お花屋さん」の訪問など、地域の人々との交流を広げている。</p> <p>高齢者とのふれあいなど、多世代の人々との交流を図っている</p> <p>ボランティアの受け入れを積極的におこない、夏休みを利用した高校生ボランティアや、保育所体験ボランティアと、交流する機会をつくっている。また、本園と同グループの高齢者施設を幼児クラスが訪問し、合奏を披露したり、一緒に制作したりするなどの交流をしている。高齢者の方も、毎回楽しみにしている。この経験が、高齢者に対する思いやりに繋がっている。5歳児は、近隣小学校との交流で、学校訪問をおこなっている。ランドセルを背負わせてもらったり、簡単な授業の体験をする中で、小学生や学校の先生と交流する機会を設けている。</p> <p>園の専門性を活かし、子育て相談や保育園体験を実施している</p> <p>市区内在中の子育て中の保護者を対象に、子育てに関する様々な相談を受けている。保育所体験は、毎週木曜日の午後実施し、1日定員10組の親子を受け入れている。園内の見学や、絵本を見たり、手遊びをする中で、保育者とふれあう体験をしている。出産を迎える親の体験学習も、実施している。これは、出産を迎えるにあたり、実際に0歳児クラスでオムツを替えなどの体験をするもので、妊婦の出産・育児への不安軽減にもなっている。さまざまな地域支援をおこなうことで、地域との友好的な関係づくりに努めている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	詳細な事故報告書を作成することで、保護者への丁寧な説明と事故防止に努めている	
内容①	「かみつき」「すり傷」など、園で起きたことはどんな小さなことでもすべて記録する「事故、ケガ報告書」があり、保護者にも報告することになっている。報告書の内容は、「事故の種類」「いつ」「どこで」「なぜ」「どこを」「どのように」「園での対応、処置」「保護者の様子」など、詳細に記録するようになっており、保護者へ報告するにあたり、担当がいなくても正確に伝えられるようになっている。さらに、集計表により1ヶ月ごとにまとめられ、発生原因と状況から、来月に向けての改善策を記録することで、事故やケガの防止に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル②	研修が充実している	
内容②	研修体制は新人研修、コーチ研修、リーダー研修、管理者研修、専門研修と充実し、個人別育成計画と連動して確実に受講している。また、外部の実施する各種専門研修を希望や必要に応じて受講し、当園では積極的に研修に参加し視野の拡大を図り職員育成を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している
タイトル③	室内の消毒や子どもの体調の変化に早めに対応することで、感染症などの予防をしている	
内容③	毎日、室内の丁寧な掃除や消毒を心がけている。特に、乳児クラスは、床をハイハイしたり、なんでも舐めるといった行動上の特徴があることから、おやつや給食後に消毒液でテーブルや椅子、床を拭き、他にもフロアや玩具は1日3回消毒しており、日々感染症の防止に努めている。朝の健康観察を丁寧におこない、子どもの体調に変化がある場合は、悪化を防ぐために、熱がなくても余裕をもって伝えるようにしている。さらに、適切な室内温度の管理や、薄着の習慣を心がけることにより、毎年、病気の感染率が低いという結果に繋がっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「良質で豊富な体験」ができる様な環境作りと関わりで、子どもが夢中になって遊び、主体性を尊重する保育をしている
	内容	毎日、夢中になる遊びや運動を豊富に計画し、子どもは活発に活動している。強い体と集中力をねらいとする「スポーツチャンバラ」、知的な好奇心を刺激する「もじかずランド」や「絵本」、創造力や感性を高める制作、行事、食育や音楽遊び、散歩など、保育者は子ども主体の活動となるように工夫し、見守ることで進めている。例えば、ハロウィンでの仮装ごっこを楽しんだ後に、子どもの興味にそって、洋服セットで着せ替えごっこに発展し、園中を巻き込み夢中になって楽しむなど、子どもの興味にそった遊び環境で主体性を高め感性や創造力を育てている。
2	タイトル	ブログやお便り、ボードの掲示、積極的なコミュニケーション、協働の子育てなど、保護者に寄り添う姿勢が高い信頼関係を築いている
	内容	0歳児の登園時は保護者と保育者が一緒に視診をかねてオムツ替えをしてから預かり、子どもは両者の顔を見て笑顔になり、安心して遊びだしている。降園時は、子どもの活動の様子をホワイトボードに写真入りで記載し、ブログも毎日更新している。連絡帳では、日々の成長や喫食状況を工夫して知らせている。各種のおたよりや行事を通して、分かりやすい情報や一人ひとりに寄り添った丁寧な保育を保護者に伝えている。また、園全体で明るく話しやすい雰囲気づくりに努め、一緒に成長を確認し、喜び合う姿勢が保護者に届き、高い信頼関係を築いている。
3	タイトル	栄養士と保育者が協力し、クッキングや栽培活動など、さまざまな体験をすることで、食への興味・関心を広げている
	内容	0歳児より毎月食育活動を取り入れ、豆腐やバナナ潰し、スイートポテトづくりなど、楽しみながら食への関心を高めている。屋上菜園を使ってのトウモロコシ栽培では、種まき、水やり、収穫をする中で、食材への興味を深めている。食育活動の様子は、毎月の給食室だよりで掲載され、さらに、「成長記録展」で1年間の食育の様子を展示し、子どもの成長を保護者に紹介している。子どもの発達段階に合わせて、フォークやお箸、マナーの検定カードを作り、無理なく正しい使い方や、マナーが身につくような工夫をしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育日誌の反省評価・記録では、さらに子どもが積極的に遊び込むために、保育者の環境としての関わり方を洞察して振り返る様に期待したい
	内容	保育日誌の一日の流れは、主な活動（ねらい）、環境構成・保育士の配慮、活動の展開から反省・評価がおこなわれている。0歳児は、ねらいを、健康生活と活動・人との関わりに分けて、個々に反省・評価をして、見直しされている。日々の保育実践の反省・評価には、保育者の環境としての関わり方を、洞察して振り返り、さらに子どもが積極的に遊び込めるような反省・評価、記録を目指すよう期待したい。保育者は日々の対話に心がけ、職員会議で意見を出し合って話し合いをおこない、共有して園全体で保育の質の向上に役立ててほしい。
2	タイトル	働きやすい職場づくりに努めている、さらに、運営面の強化を図り、組織力の向上を期待したい
	内容	働きやすい・職場づくりを優先課題として取り組み①仕事の見直しと業務の簡素化による職員負担の軽減②職員の体調不良時などチームでの助け合い③コミュニケーションを良くして一人で悩まない④超過勤務の削減や休暇取得、育児休暇取得などワークライフバランスの配慮等の努力をしている。職員全員で子ども一人ひとりに丁寧な保育を行い保護者との信頼関係も高い。今後は組織運営面で各会議の目的の明確化と確実な実施、運営体制では一人ひとりの役割と責任を具体的に再確認、報・連・相の徹底など組織力の向上を期待したい。
3	タイトル	重要課題は5W1Hで具体化し、PDCAサイクルを回す様に期待したい
	内容	今年度の重要課題は①保育理念・方針・目標を日々実践するため具体的な保育目標を話し合い明確にすること②職員主体の運営を進めるために、保育実践を振り返る場や会議の充実を図ること③職員負担軽減のために行事の簡素化と内容の充実④保護者へ「保育内容とねらい」の情報提供の向上等4つの課題に取り組んでいる。今後、年度の重要課題は中期計画との連動性をさらに高め、年間計画は5W1Hで具体化しPDCAサイクルを回す様に期待したい。